



直江真衣 《在りの遊び》 麻紙、岩絵具 1818 × 2273 mm

《在りの遊び》
盛上げによるマチエールを生かした質感表現の追求
《Aimless》
A study of Texture Expression
Utilizing Matiere with Pumice Powder

直江 真衣
Mai NAOE

崇城大学大学院芸術研究科美術専攻
Division of Fine Art, Graduate School of Art, Sojo University



《在りの遊び》
麻紙、岩絵具 1818 × 2273 mm

本稿は、現在まで制作に取り入れてきた「盛上」によるマチエールを生かした質感表現と、制作を続ける中で複雑化していった主題とによって、心情を反映した空間を描出することを試みた修了研究作品に関する制作論である。

1章では、本研究テーマに至った理由を明示した。具体的には、一貫性のなかった制作目的や態度が盛上技法を学んだことで変化し、画面にマチエールを施して表現するという目的を持てるようになったことや、描き続けたことで、主題が単なる写実描写だけでなく心情や構想を反映させた内容へと深化し、漸く日本画で作品を制作していくに当たっての糸口を掴んだように思われたことなどについて述べた。

次いで2章では、まず、目にした路面の質感表現に盛上技法が適していると考えて初めてマチエールを施して制作したことで、盛上技法に興味を持つに至った経緯について述べた。そして、技法の習得に時間と経験を要するという点や、自身の制作の特色となるように盛上を取り入れたかったという点から、盛上技法が稿者にとって追求すべき技法になったことを明示した。さらに本修了研究作品では、主題を車内空間とし、形骸化した日々から生じた心情を反映させながら盛上技法を用いて空間を描出することを課題としたことについても言及した。またその際、作品に付すタイトルを辞典で探し、最も適していると思われた「在りの遊び」をタイトルにしたことについても触れた。

3章では、盛上技法の画材や主題、さらに構図の決定に至るまでの過程などを概説した。続く4章では、本修了研究作品の制作過程について述べた。まずは、小下図、草稿、線画の転写の後に、岩絵具による描写と盛上による様々な質感の試みを行った手順を概説した。その後、制作しない期間を挟んだことで、車内に彼岸花という新しい要素を盛上で付加するに至った経緯を説明した。そして最後に、微調整を行いながら仕上げに進んだことについても言及した。最後の「おわりに」では、反省と今後の展望について述べ、総括とした。